

製品名: 14-3-3 θ/τ (リン酸化 Ser232) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04179**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	YWHAQ
別名	YWHAQ; 14-3-3 protein theta; 14-3-3 protein T-cell; 14-3-3 protein tau; Protein HS1
遺伝子 ID	5350.0
SwissProt ID	P27348
免疫原	抗血清は、ヒト 14-3-3 thet/tau の Ser232 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 196-245

背景

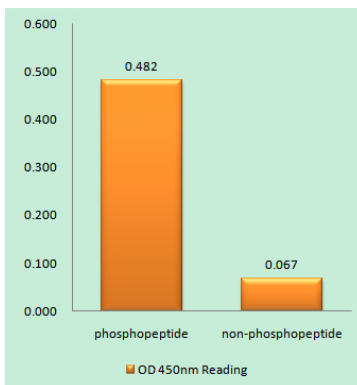
この遺伝子産物は、ホスホセリン含有タンパク質に結合してシグナル伝達を媒介する 14-3-3 タンパク質ファミリーに属します。この

高度に保存されたタンパク質ファミリーは植物と哺乳類の両方に存在し、このタンパク質はマウスおよびラットの相同遺伝子と 99% 同一です。この遺伝子は、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者において発現が亢進しています。5' UTR には 6 bp のタンデムリピート配列が含まれており、この配列は多型性を有していますが、リピート数と疾患の間に相関関係はありません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 広範囲の一般および特殊シグナル伝達経路の制御に関与するアダプタータンパク質。通常、ホスホセリンまたはホスホトレオニンモチーフを認識することで、多数のパートナーと結合します。結合は一般に、結合パートナーの活性の調節をもたらす。類似性: 14-3-3 ファミリーに属する。細胞内局在: ニューロン内で、軸索を介して神経終末に輸送される。サブユニット: ホモ二量体。PCK1 と相互作用する (類似性による)。SSH1 と相互作用する。CDKN1B (「Thr-198」リン酸化型) と相互作用し、この相互作用により CDKN1B は細胞質へ移行する。組織特異性: 脳、心臓、脾臓で豊富に発現し、腎臓と胎盤でも低レベルで発現する。孤発性筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者の腰髄では対照群と比較して発現が亢進しており、主に下位運動ニューロンが障害されている患者で最も高い発現レベルを示す。

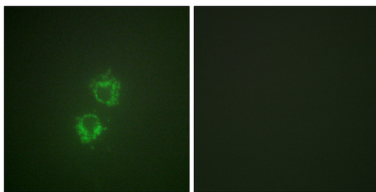
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;神経栄養因子;病原性大腸菌感染症;

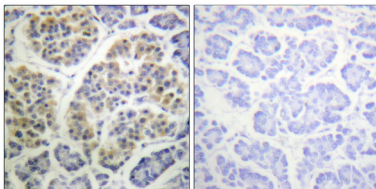
画像データ



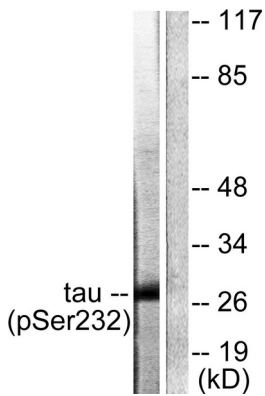
14-3-3 thet/tau (リン酸化 Ser232) 抗体を用いた、リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



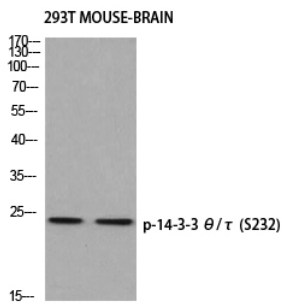
14-3-3 thet/tau (リン酸化 Ser232) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



14-3-3 thet/tau (リン酸化 Ser232) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



14-3-3 thet/tau (リン酸化Ser232) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



p-14-3-3 θ/τ (S232) 抗体を用いた 293T マウス脳ウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。